

## 第3回東京都聖火リレー実行委員会について

### 1 開催日

平成30年12月17日（月）

### 2 出席委員

会長：猪熊純子 東京都副知事  
副会長：西川太一郎 特別区長会会長（荒川区長）  
長友貴樹 東京都市長会会長（調布市長）  
河村文夫 東京都町村会会長（奥多摩町長） ほか

### 3 議題

- (1) 東京都聖火リレールート of 巡回順案について
- (2) 今後のスケジュール等について

### 4 審議状況

東京都聖火リレールート of 巡回順案について、概ね1つの案で了承されるとともに、今後のスケジュールについて確認した。

#### <主な発言>

- これまでの委員会の議論を踏まえて、各地域のバランスにも十分配慮した案になっている。今後、各区市町村に早めに伝えて、詳細を詰めて欲しい。
- まずは1つの案に取りまとめて調整を進めるのが良いが、調整の状況もあるので副案も残しておいたほうがよい。
- 7月という時季であることも踏まえ、天候リスクに備えた対策も今後更に検討してほしい。
- 都が行う15日間は、大会開会式の直前の時期でもあり、安全で円滑な聖火リレーとなるよう進めてほしい。

## 第3回東京都聖火リレー実行委員会 次第

平成30年12月17日（月） 10:30～11:30

東京都庁第1本庁舎7階 大会議室

1 開会

2 議事

(1) 協議事項

- ・ 東京都聖火リレールート of 巡回順案について
- ・ 今後のスケジュール等について

(2) その他

3 閉会

### 第3回東京都聖火リレー実行委員会 出席者名簿

職名	団体名・職名	氏名
会長	東京都副知事	猪熊 純子
副会長	特別区長会会長（荒川区長）	西川 太一郎
副会長	東京都市長会会長（調布市長）	長友 貴樹
副会長	東京都町村会会長（奥多摩町長）	河村 文夫
委員	東京都オリンピック・パラリンピック準備局長	潮田 勉
委員	警視庁オリンピック・パラリンピック競技大会 総合対策本部副本部長	後藤 友二
委員	消防総監	村上 研一
委員	公益財団法人東京都体育協会理事長	並木 一夫
委員	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会会長	白石 弥生子
委員	公益財団法人東京陸上競技協会理事長	中野 人志

# 第3回東京都聖火リレー実行委員会

## <概要>

2018.12.17

# 1. 聖火リレー巡回順案について

＜出発地選定の考え方（第2回東京都聖火リレー実行委員会で提示）＞

- 組織委員会が示す聖火リレーコンセプト「希望の道を、つなごう。」を体現できる場所
- 日本国内を巡回した聖火が、開催都市・東京都に運ばれたことを世界に発信するのに相応しい場所
- 出来るだけ多くの人々が見に行くことができ、安全かつ確実に実施できる場所  
（車列の待機場所の確保も必要）

→ 上記の考え方を基に議論

# <島しょ地域の巡回方法>

## 【空の移動】

### • 小型機

調布～大島・新島・神津島・三宅島

### • ジェット機

羽田～八丈島

### • ヘリコプター

大島～利島、大島～三宅島～御蔵島  
～八丈島～青ヶ島間で運航



## 【海の移動】

### • 高速ジェット船

竹芝～大島・利島・新島・式根島・神津島航路

### • 大型客船

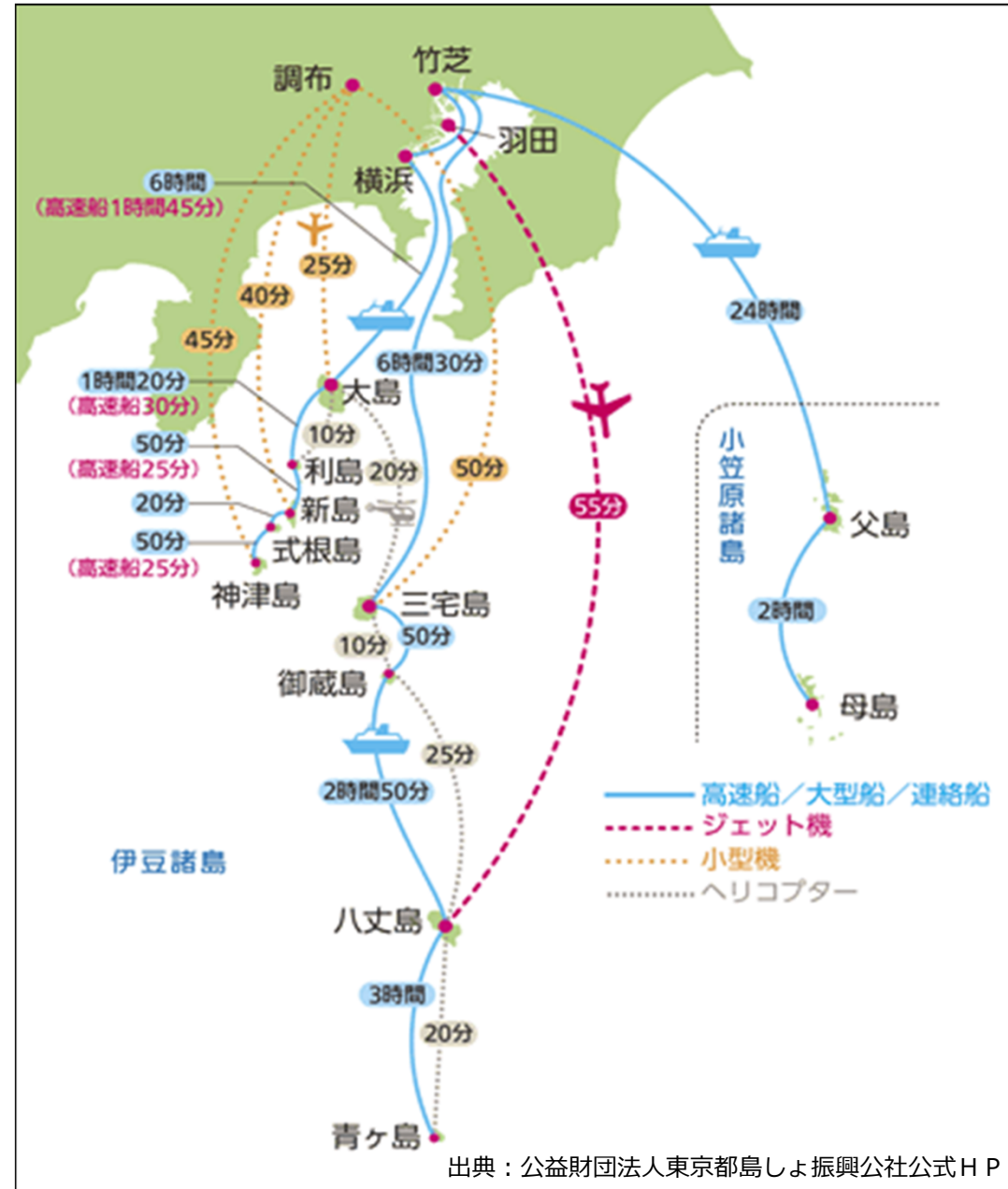
竹芝～大島・利島・新島・式根島・神津島航路

竹芝～三宅島・御蔵島・八丈島航路

八丈島～青ヶ島航路、父島～母島航路

竹芝～父島航路

### • 漁船



→ 上記の状況を基に議論

## <区市町村の巡回順案について>

- **15日間で62区市町村をまわる**こと
- セレブレーション会場を**地域にバランスよく配置**すること

を前提にして、区市町村巡回順案のイメージについて

- 概ね、**時計回り又は反時計回り**となるルート
- 原則、**隣接する区市町村にリレー**することとし、**できるだけ「一筆書き」**になるようなルート

→ 上記について議論

## 2. 今後のスケジュールについて

### 2019年

引き続き、実行委員会を開催し、以下の内容を議論していく

- 聖火リレールート詳細案・セレブレーションの具体的内容の検討
- ランナー選出計画案の策定及び公募・選考の実施 など

### 2020年

- 聖火リレーの実施



## PRESS RELEASE

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
 <Tokyo 2020.NEWS-2018-282>  
 2018年12月21日

## 東京 2020 パラリンピック聖火リレーコンセプト発表 「Share Your Light /あなたは、きっと、誰かの光だ。」

東京 2020 組織委員会は、本日、聖火リレー検討委員会（第 10 回）において東京 2020 パラリンピック聖火リレーのコンセプトについて最終報告を行いました。

コンセプトは、「Share Your Light（英語） / あなたは、きっと、誰かの光だ。（日本語）」です。

このコンセプトは、聖火リレーに関する有識者会議である聖火リレー検討委員会において検討され、国際パラリンピック委員会（IPC）の承認を得たものであり、パラリンピック聖火リレーを通じて、社会の中で誰かの希望や支えとなっている多様な光（人）が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としよう、という想いを表現しています。（別紙）

東京 2020 大会のパラリンピック聖火リレーは、「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援する全ての人の熱意が集まって一つの聖火を生み出す」という IPC の理念のもと、できるだけ多くの方々に参加いただき、オリンピック終了後、パラリンピックへの移行期間においても、その熱気や興奮を持続させ、来るパラリンピックへの関心や祝祭感を最大限に高めるものとしていきます。

また、2020 年を契機に、一人ひとりが互いの価値や輝きを認め合う共生社会を実現すべく、人と人、人と社会との、“新しいパートナーシップ”を考えるきっかけとなることを目指します。

東京 2020 パラリンピック聖火リレーでは、開催都市東京都、パラリンピック競技開催県（埼玉県、千葉県、静岡県）においてトーチで火をつなぐリレーを実施し、4 都県を除く 43 道府県については、採火などを通じてなるべく多くの道府県に参画いただけるように、今後調整をしていきます。

約 1 年半後に迫った東京 2020 パラリンピック聖火リレーの開催に向けて、引き続き関係機関と緊密に連携して準備を進めてまいります。



TOKYO 2020



## 【本件に関するお問い合わせ】

東京 2020 組織委員会

広報局広報部戦略広報課

担当：安野、近藤

電話：03-6631-1949 / FAX：03-3502-8874

Email：[pressoffice@tokyo2020.jp](mailto:pressoffice@tokyo2020.jp)

## 【公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会について】

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と東京都により 2014 年 1 月 24 日に一般財団法人として設立され、2015 年 1 月 1 日付で公益財団法人になりました。第 32 回オリンピック競技大会は、2020 年 7 月 24 日（金）～8 月 9 日（日）の日程で、東京 2020 パラリンピック競技大会は、2020 年 8 月 25 日（火）～9 月 6 日（日）の日程で開催されます。東京 2020 大会に向けて組織委員会は、JOC、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）、東京都、政府、経済界、その他関係団体と共にオールジャパン体制の中心となり、大会の準備および運営に関する事業を行います。

Web: [tokyo2020.org](http://tokyo2020.org) | Facebook: [facebook.com/tokyo2020](https://www.facebook.com/tokyo2020) | Twitter: [twitter.com/Tokyo2020jp](https://twitter.com/Tokyo2020jp)

Instagram: <https://www.instagram.com/tokyo2020/> | LINE: <https://line.me/R/ti/p/%40tokyo2020>

---

## 東京 2020 の大会ビジョン

スポーツには、世界を変える力がある。2020 年は、史上最もイノベーティブで、世界中にポジティブな変革をもたらす大会とする。

1) 全員が自己ベスト 2) 多様性と調和 3) 未来への継承

<https://tokyo2020.org/>

## 東京2020パラリンピック聖火リレー コンセプト

スローガン

**Share Your Light**  
**—あなたは、きっと、誰かの光だ。—**

ステートメント

**新たな出会いから生まれる光を集めて、  
みんなが調和し、活かしあう社会を照らしたそう。**

## 東京2020パラリンピック聖火リレーの目的

**パラリンピック聖火リレーを通じて、パラリンピック大会への機運醸成を図る  
(オリンピック大会からの熱気をつなぐ)**

結果として、パラリンピック聖火リレーへの参画のみならず、パラリンピック大会への関心を高め、  
パラリンピック大会への観戦促進につなげること(=関与すること)で、  
障がい者/障がい者スポーツへの理解促進を図り、東京2020大会以降、共生社会を作るきっかけとする。